別紙

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立大和小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		58	62.5	55.1	52.7	56.9
	本年度結果 偏差値平均	50.1	50.8	51.6	50.2	46.6	50
算数	前年度結果 偏差値平均		57.4	60	55.7	49.6	54.9
	本年度結果 偏差値平均	53.1	54.5	52.7	49.7	50.6	52.2
理科	前年度結果 偏差値平均				56.7	58.1	55.9
	本年度結果 偏差値平均			57.6	52.8	54.9	55.1
全体	前年度結果 偏差値平均		57.7	61.3	55.8	53.5	56.4
	本年度結果 偏差値平均	51.6	52.6	53.2	50.9	50.7	51.9

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第6学年対象）

教科	国語	算数	理科
前年度結果 （対県比）	62 (94)	62 (88.6)	
本年度結果 （対県比）	62 (92.5)	57 (89)	62 (93.9)

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて）

●国語科では，感想などを伝え合うこと（44.5%）低学年の話の内容の大体をとらえる，高学年の主題や構成を読み取ること（49.76%）丁寧な言葉で記すこと（59.3%）文や文章を正しく書くこと（37.6%）目的に応じて工夫して書くこと（40.9%）構成を考えて書くこと（45.5%）に課題がある。

●算数科では，数と計算（5年）図形（6年）変化と関係（5年）データの活用（5年）の領域が全国比より低く課題がある。

●理科では，乾電池，電磁石と電流（61.6%）天気と気温・雨水と地面（53.4%）振り子の動きとそのきまり（68.6%）に課題がある。

【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて）

●国語科では，文章に対する感想や意見を伝え合い，よいところを見つけるて文章を書く（30.8%）に課題がある。この問題の無回答率も高く，文章を書くことに課題がある。

●算数科では，果汁の問題で，数量が変わっても割合は変わらないというものが（15.4%），比例の問題で，式や言葉を使って解き方と答えを書く問題が（30.8%），概数の使い方で数の処理の仕方を考察する問題（30.8%）と課題がある。また，生活と結び付けた算数の活用と，解き方や考え方の説明にも課題がある。

●理科では，光の性質を基に指定した条件に当てはまる人を選ぶ問題で（30.8%），実験で得た結果について根拠を書く問題（34.6%）で課題がある。また，結果につながる理由を数値を基に文章で書くことにも課題がある。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 規律ある環境の中で，学習意欲の向上を図るとともに，「自己認識」「自己選択」「自己表現」を意識した授業改善を行う。 〇児童の主体的な学びとなるよう，全教諭が「問い」を意識し，「問い」を探究してく授業を実施する。 〇「自己決定の場」を工夫した授業を実施する。 〇「ICT機器の活用」を工夫した授業を実施する。	①三原市授業改善イメージチャートに基づいた，自らの問いを持つ・問いを探求していく思考過程の二つの視点での授業研究を一人1回以上行う。 ②必然性のあるペア活動などの学習形態の工夫を取り入れ，児童同士が考えを伝え合い学び合う授業改善を行う。 ③学び方の選択肢の提示と自己決定をする場の設定を45分の授業の中に位置づける授業改善を行う。 ④ICT機器の活用について，研修を行い，実践記録を蓄積していく。 ⑤9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。 ⑥算数は，45分間で適用題まで行う。また，「たしかめプリント」を授業や家庭学習で3回以上行う。 ⑦国語や社会は，45分間の中で，教材文を2回以上，声を出して読む。また，教材文の視写を1回以上行う。	①年間1回以上（校内授業研究） ②月1回連絡会後の取組の情報交換及び校内授業研究 ③月1回連絡会後の取組の情報交換及び校内授業研究 ④月2回連絡会後の取組の情報交換及び夏季休業中での研修実施 ④－2　全児童のミートの使用の定着を図る。 ④－3　毎日，クロームブックを使う家庭学習を実施する。 ⑤夏季・冬季休業で取組についての研修実施。9月・1月，管理職による授業観察。 ⑥夏季・冬季休業で取組についての研修実施。管理職，研究主任による授業観察。 ⑦夏季・冬季休業で取組についての研修実施。管理職，研究主任による授業観察。 ②～④夏季休業での研修で，方向性を揃えるための取組の交流	「学びの変革」授業参観シートに基づく評価ポイント（A＝5，B＝3，C＝1で換算）（平均3ポイント以上） ・各学期まとめテスト平均値（1・2年90%以上，3・4年85%，5・6年80%以上） ・Q-U2回目の学習意欲の数値（全国得点以下の学級は，全国得点以上，全国得点以上の学級は，1回目の得点以上） ・児童質問紙の肯定的評価（「国語，算数，理科，社会の授業がよく分かる」90%以上） ・低学力層の児童の各学期の単元末テストの平均点を70点以上にする。
【学級・学習集団づくり】 安心安全な環境をつくり，上記の視点を持ち授業づくりを行うことで，親和性の高い集団をつくる。 〇安心・安全な学習環境をつくるため，学習ルール，環境整備を徹底する。 〇生徒指導上の問題の未然防止や，個別の支援のため，複数体制で見守りができるようにする。 〇生徒指導上の問題について組織的に取り組む。 〇Q-UアンケートとNRTとのクロス分析を行い，親和性の高い集団づくりについて研修し，実践する。	①Q-UアンケートとNRTとのクロス分析による実態把握と改善計画の立案 ②学習ルールや環境整備を徹底するよう，管理職は主に学習ルールを5分程度でも毎日，教務主任や研究主任は主に環境整備を放課後に月に1回，校内を見て回り，改善を図る。 ③連絡会で児童交流を行い，全職員と共有化を図る。 ④生徒指導上の問題は，生徒指導担当や管理職に報告し，取組の方向性を決め指導するという一連の体制をづくりをし，実施する。 ⑤複数体制での見守りができるよう，計画表を作成し全職員で取り組む。 ⑥個別最適な学びや生徒指導，集団作りについて研修を行い具体的な取組を決め実践する。 ⑦（再掲）9月及び1月に「読む」「書く」「支持的風土」の定着のための重点指導を行う。	①6月，夏季休業，11月 ②毎日及び月1回 ③週2回（児童の交流は夏季休業及び冬季休業でも行い，方向性を揃える） ④随時 ⑤毎日 ⑤夏季・冬季休業で取組についての研修実施。9月・1月，管理職による授業観察。 ⑥夏季休業，冬季休業での研修随時	・Q-U2回目の一次支援の児童の割合（全学級50%以上） ・教室環境チェック表による評価と改善（全項目〇） ・児童質問紙の肯定的評価の割合（「学校のきまりを守っている」95%以上，「自分にはよいところがある」90%以上，「困ったことがあったとき，先生や友達に相談できる」100%以上）